



@東洋文化 研究所



よねの
米野みちよ 准教授
(東洋文化研究所)

91年、東京藝術大学音楽学部楽理科卒業。11年、フィリピン大学社会科学哲学学部博士課程修了。博士(フィリピン研究)。フィリピン大学アジアセンター准教授などを経て、17年より現職。

フィリピンを主なフィールドに音楽学と人類学を専門にする米野みちよ准教授(東洋文化研究所)。現在の研究の一つは、フィリピン大学の民族音楽学センターが保有する

活動も行う。「現地の声を、なるべくそのまま伝えることが目標です」。かつて部族き

音声アーカイブ資料を利用した民謡の変遷の分析だという。「博士論文の頃はアーカイブが整備されていなかった。今ようやく、よりの網羅的な研究ができると思っています」

同時に、先住民が伝承する民謡を音声と文字の双方で残す。横濱の多文化地域で、子供た

ち居場所を提供して音遊びを行うアーティストらの支援活動記録し、共に分析する研究を計画している。「言語にハンディのある子供たちにとって、音(楽)を通して内面を表現する体験は貴重です。調査を通して、支援者が家族や地域との関係をさらに深め、多文化地域の文化の創造に役立ててほしいです」

虐待のニュースが後を絶たない昨今。保護者や保育者に多大な負担がかかる現状を改善することによって、子供の「マルチリトメント」を予防する政策を研究するプロジェクトにも参加し、国内の外国人家庭の子育ての調査を担当していきます。アジア研究の世界のトレンドを知ることができるのは幸いですね」

音楽、伝統、人の活動を守る

う。「子育てが苦にならない社会が理想ですよ。私はフィリピンで子育てを経験しましたが、日本と比べてだいぶ楽しかった。一般的にフィリピンの家庭は大家族な上、他人にも寛容なので、多くの人で子育てを分担する傾向にあり、母親だけに負担がかかるということがないんです」

研究室は昨年始まったばかり。音楽から子育てまで幅広い研究を行うが、共通するのはマイノリティーへの優しきまなざしだ。まだまだ学生の数は少ないが、将来の研究生に対し「たくさんさんの良質な文章を読んでください。既成観念にとらわれずに社会と人間をよく観察してほしいですね」と語る。(曾木悠美)

◇